

備前市事務事業評価シート

事業の概要			
事業開始年度	昭和57年度～		
総合計画	大項目	基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目	基本施策	01 生活しやすいまちづくり
	小項目	施策	10 下水道
事務事業名	09	排水設備検査事務	
根拠法令・例規等	下水道法 備前市公共下水道条例		
問	担当課(室)	下水道課	
合	職・氏名	管理係長 小川 勝巳	
先	電話	0869-66-9702	
このシート作成に要した時間			2.5 時間

事業の意図する成果とつなげる成果指標を設定

事業の目的	
対象(誰・何に対して)	下水道、農業集落排水施設及び漁業集落排水施設並びに個別排水処理施設に接続して汚水を処理しようとする人。
目的(何のために)	適正な施工方法・維持管理方法の徹底により安心して使用できる排水設備とし、また、下水本管や処理場のトラブルを防ぎ、施設の維持管理費の増加を防ぐ。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	適正な施工方法や維持管理方法の徹底により、安心して使用できる排水設備とし、また、下水本管や処理場のトラブルを回避し、維持管理費の増加を防ぐ。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の実績		
細事業名	事業の説明	優先度
排水設備検査事務	下水道供用開始区域内の市民が、排水設備設置時に指定工事店をとおして行う申請書類の審査から工事完了の確認検査までの事務を行った。	
目的を達成するため実施した事業		

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業費等		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績	
決算額	直接事業費	千円	0.32人	2,018	0.34人	2,187
	必要人員	人	2,018	2,187	1,652	
財源	事業費計	千円	2,018	2,187	1,652	
	国県支出金					
	受益者負担					
	繰入金					
	その他()					
一般財源			2,018	2,187	1,652	
受益者負担比率	%		-	-	-	
結果指標名		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績	
排水設備検査数	説明	件	205	220	109	
結果指標量				220	109	
対前年比		%	-	107.3%	49.5%	
活動コスト		円	2,018,000	2,187,000	1,652,000	
単位当たりコスト		円	9,844	9,941	15,156	

(平成22年度事業)

事業の成果						
成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値	
		目標値(A)	0	0	0	0
		実績値(B)	2.44	3.18	1.83	到達目標値
完工検査改修率	達成率(B/A)	未達成	未達成	未達成	0	
成果指標設定の考え方・式や説明						
設置基準不適合件数÷排水設備完工数×100=2÷109×100 1.83						

事務事業の評価		5段階評価(A~E)のランク基準 A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	妥当性評価 <A~E> B
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 <A~E> B
有効性の評価	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 <A~E> B

事業の目的やその数値目標がある成果指標を評価

進行年度(H23年度)の改革改善内容						
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	前年度と同様、適正な排水設備の施工方法と維持管理方法を徹底している。					

総合評価		5段階評価(A~E)のランク基準 A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い
今後も継続して、岡山県下水道協会と連携し、責任技術者の技術レベルの向上と排水設備設置基準の周知を図る一方で、各接続者にも維持管理方法の周知を図っていく。	評価区分 <A~E> B	

平成24年度の方向性・取組目標						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
取組目標	引き続き、適正な排水設備の施工方法と維持管理方法を徹底していく。					

Action